

# 平成29年度「学校版環境ISOコンクール」の取組における概要報告

合志市立合志南小学校

## 1 宣言

合志南小学校の子どもたちは、自然に触れる活動が大好きです。これまで環境教育の中で、水や電気を大切にし、ゴミの量を減らしていこう、また、プラごみと燃えるごみに分ける分別収集をしていこうという取組を続けてきました。環境保全に対する意識はつき始めましたが、主体的で実践的な行動はまだ十分とはいえません。

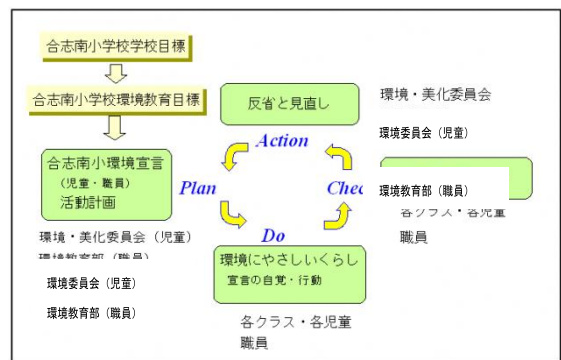
そこで、本校では環境教育目標を次のように設定し、生活科・社会科・理科・家庭科等の教科、道徳、総合的な学習の時間、特別活動等を通して環境教育を進めています。

### 環境教育目標

身近な環境に関心を持ち理解を深め、環境とのふれあいを通して、環境にやさしい心情を育むとともに、環境保全活動や環境問題の解決に意欲的に関わろうとする態度や能力を育成する。

環境にやさしくらしを目指して、委員会活動を中心に「環境ISO」活動に取り組んでいます。

次のような「合志南小環境ISO宣言」を設定し、その具体的な活動計画に沿って、全児童・全職員で取り組みました。



### 「合志南小環境ISO宣言」

#### 《合志南小環境ISO宣言》児童

- 1 照明のスイッチをこまめに消します。
- 2 水道の蛇口をしっかりしめます。
- 3 歯磨きはコップ一杯の水でします。
- 4 つかえる紙はリサイクルします。
- 5 燃えるゴミの計量をして、ゴミを減らします。
- 6 食べ残し0をめざします。
- 7 休み時間は外で元気に遊び健康に過ごします。
- 8 そうじをがんばります。
- 9 花、米、野菜、生き物を大切に育てます。

#### 《合志南小環境ISO宣言》職員

- 1 裏紙を利用して、紙の消費を5%減らします。
- 2 OA機器や照明、エアコンのスイッチをこまめに切り、電気を節約し使用量を5%減にします。
- 3 トイレや掃除の時の水を節約し、使用量を5%減らします。
- 4 ごみの分別を正しく行い、リサイクルの推進を図ります
- 5 花、米、野菜、生き物を大切に育てます。

### 目標の設定

- 電気、水道使用量を5%減らす。(数値目標)
- 全校児童で学期ごとにエコ活動(環境を大切にする活動)を実施する。(行動目標)

平成22年度より環境委員会(現在ラブ・アース委員会)を中心に、年々増えている電気使用料、水道使用量の削減に務め、本年度は8年目になります。本年度は、環境を大切にするための行動が行えるよう、子ども自身が節電・節水の意識を高め、「教室移動の際は室内の電気を消す」「水道の蛇口は最後まで回してもどす」「紙は無駄遣いせず、裏紙も使う」等、具体的な行動を行っていきます。そして、太陽光発電への関心を高め、CO<sub>2</sub>の削減や電気、水道の使用量を減らすことで限りある資源の保護に努めていきます。

## 2 行動

### 委員会を中心とした全校での取り組み

#### ① ラブ・アース委員会(栽培・環境委員会)

栽培と環境保全を目的としたラブ・アース委員会では、活動目標を「地球にやさしい活動をし、花いっぱいの学校にする」としました。

##### ○種まき・苗植え

美しい学校をつくるために学校園や学級に花を植えて世話をしたり草取りや落ち葉をはいたりします。季節の花や苗は校内に飾り、自然に親しむ機会を増やしています。

玄関前のプランターと花だんの花、育てている苗には曜日と場所ごとに当番を考え、毎日水やりをしています。チェック表を用いて確実な水やりを目指し、月に1回の委員会活動で反省し、互いに声をかけ合っています。

##### ○プラスチックごみの分別

燃えるゴミとプラスチックゴミの分別をするために、各教室にプラスチックごみ専用のごみ箱を設置しています。各教室で集まったプラスチックゴミは、収集場所を設置して1ヶ所に集めるようにしています。分別する習慣をつけることで、ゴミに対して意識づけし、ごみ減量を目指しています。

##### ○節水・節電の呼びかけ

放送やポスター掲示で、児童に呼びかけを行っています。

**【節水】** ・手洗い時は、水を止めてから石けんで洗う。

・歯磨き中は、水を止める。(水はコップ1杯)

・そうじの時間は、バケツ1杯の水で雑巾を洗う。

**【節電】** ・教室移動の時は、必ず電灯を消す。

・昼休みはできるだけ外遊びをし、教室の電灯を消す。

・鉛筆は家で削ってくる。

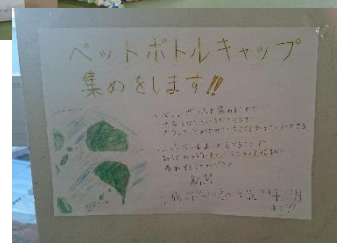
#### ② ふれあい委員会(飼育・ボランティア委員会)

動物飼育、ボランティア活動を目的としたふれあい委員会

では、児童に呼びかけて回収した資源を様々な機関に寄付をして活用をお願いしています。

##### ○ペットボトルキャップ

各学年に1つ、計6か所に回収箱を設置し家庭からペットボトルキャップ



を集めています。

ペットボトルキャップ集めの意義を委員会の児童が各教室を回って直接説明しました。このことは、「ペットボトルキャップ」集めが世界の人たちに役立っているという意識付け、意欲付けにもなり、意欲的に取り組むことができました。集めた資源は、地域の機関に持ち込んでいます。

#### ○書き損じはがき回収

書き損じはがきの多く出る1月に回収箱を設置し、当番で校内放送と正門での朝の呼びかけを行っています。例年400枚程度集まります。本年も、410枚程度(1月10日現在)集まっています。

集まったはがきは、各団体に寄付することで様々な支援への活用をお願いしています。



### ③ 給食委員会

給食委員会では児童が食に興味を持ち、栄養を意識しながら食事をとることができるように献立の紹介や残滓を減らすためのキャンペーンに取り組んでいます。

#### ○残滓調べ

学期に1回、クラスごとの1週間の残菜調べを行っています。残菜が少なかったクラスは委員会から表彰をし、賞状を授与しています。この取組によって、完食することの意識付けができ、残菜によるゴミを減らすことにつながっています。また、牛乳パックに関しても再利用という視点に立って中身を飲み干してしまうよう呼びかけをしました。



### 学級での取組

2年生では、生活科の学習で、5月に植えたなす、キュウリ、ミニトマトの苗を育て、野菜の収穫まで行ないました。世話をする中で気付いたことを話し合ったり観察を続けたりすることで、植物への関心を高めることができました。3年生、4年生でも学級園で育てた草花を理科の時間に観察・記録して1年間を通じた成長を学習しています。

### 職員の取り組み

裏紙の使用や両面印刷を実施することで紙使用量が減少しました。授業中は職員室の照明を必要最小限にし、照明、OA機器、エアコン等での無駄な電力消費がないよう、職員全体で声を掛け合っています。空調設備には使用規約を作成し、職員共通理解のもと徹底した管理を行っています。

また、ごみの分別を徹底するための表を作成し、わかりやすい分別を心がけ、廃棄の前には再利用可能なものがないか確認しています。

## 3 記録

今年度は児童数が70名程増え、前年度に比べて全体の水と電気の使用者数は増加しています。水・電気共に前年度より使用量が増していますが、取組に伴い使用量が減少している期間もあります。

### 水道使用量（単位：立法メートル）

使用月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
28年度	245	350	1067	783	1255	1005	457	459	480
29年度	443	554	1331	770	1560	710	660	758	645

### 電気使用量（単位：kwh）

使用月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
28年度	8694	7716	11178	20208	26994	16404	20036	14718	11478
29年度	12402	9060	9024	16812	22530	17940	20154	15090	22374

今年度は水道管からの水漏れがあり、若干使用料も上がりましたが、総使用量が、どの月も上積みで推移しました。徹底した呼びかけや注意喚起ができなかったことが原因と考えられます。今後の課題として、「自分にできる一歩から」を合い言葉に意識付けが大切だと考えます。電気使用量は学校が稼働している期間については、前年比を上回っているが、休業の夏期は、前年度に比べて下回っており児童数の増加に伴う教室の増加が背景にあると思われます。しかし、こまめに電気を消す、空調機の温度設定を考えるなどの日常の行動が節電につながると考えられます。

また、児童が作成した節水・節電を呼びかけるポスターが壁面に掲示されています。継続した働きかけが児童や職員に根付き、今後の活動に有効に働くと考えられます。今年度の取組を改善し、新たな取組と共に、より効果的な節水・節電を目指していきたいと思います。

## 4 見直し

来年度に向けて

- 教室を使用しないときの「電気を消す」「空調を消す」意識付けは進んでいます。しかし、徹底には至らないため、呼びかけや規約見直し・改善の継続が必要です。
- 委員会の活動での取組は児童が環境保全に主体的に関わることができるため、大きな効果があります。生活の中から自分たちにできることを見つけ出し、今年度の活動と併せて計画することで、より多くの児童が意欲を持って保全活動に参加することができると考えます。
- プラスチックをはじめ、ごみの分別をわかりやすくすることで、再利用についての考えもひろがりつつあります。プリント物や工作時のテープ、色紙などの使い方について見直すとともに、再利用についても取り組むことで、より多くの資源の活用やごみの減少につながると考えます。
- 取組の結果を視覚化することで、意欲を保ったまま活動を継続することができます。校内に掲示場所を設けたり、学級での取組を表彰したりする機会を増やしていく必要があります。
- ひとつの意識、ひとつの行動が積み重なり、大きな結果へとつながります。学校全体で自分たちにできることを話し合い、これからも取組を続けていきたいと思います。